

いけんひろば
「こどもデータ連携」について考えてみよう！
フィードバック資料

2024年10月30日（水）・11月6日（水）・12月6日（金）
出向く型

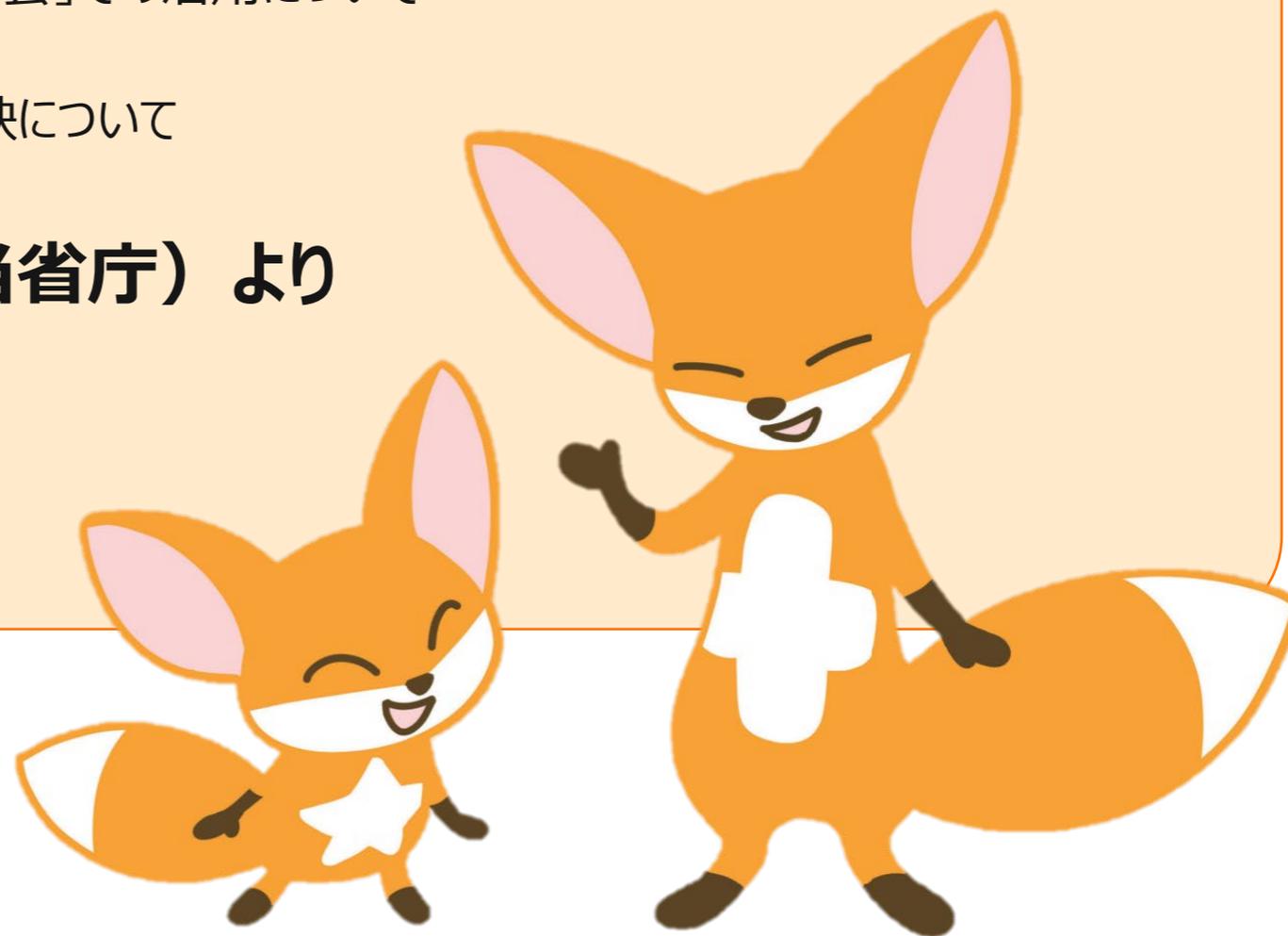
2024年度「こども若者★いけんぷらす」事業

1. 開催概要

2. 意見の活用について

- ①「こどもデータ連携の取組に関する検討会」での活用について
- ②「こどもデータ連携ガイドライン」への反映について

3. こども家庭庁（テーマ担当省庁）より



テーマ	「こどもデータ連携」について考えてみよう！
担当省庁	こども家庭庁
テーマ説明	<p>困難な状況にあるこどもは、こども自身が声をあげられなかったり、こどもが自分自身の困難を把握できていなかったりなど、その実態が見えにくく、実際の支援に繋げるまでに様々な課題があります。</p> <p>そこで「こどもデータ連携」事業では、地方公共団体の様々な部局がもつ、こどもに関するデータを分野横断で集めて人の目で確認することで（＝データ連携）、潜在的に支援が必要なこどもを早期に把握し、プッシュ型・アウトリーチ型支援に繋げるための取組を行っております。</p> <p>そこで、この取組を進めていくため、どうすればよりよい取組になるか、どのような点に気を付けるべきかについて当事者になるこども・若者の皆さんの意見を聴かせてください。</p>
開催日時	<p>①令和6年10月30日（水）13：00～14：30</p> <p>②令和6年11月6日（水）15：00～16：30</p> <p>③令和6年12月6日（金）18：00～20：00</p>
開催場所	<p>①こども家庭庁</p> <p>②大学施設</p> <p>③社会教育施設</p>
参加人数／グループ数	<p>①11名／3グループ</p> <p>②5名／1グループ</p> <p>③3名／1グループ</p>
参加対象者	<p>①社会福祉学を専攻している大学生世代</p> <p>②教育福祉学を専攻している大学生世代</p> <p>③高校生世代</p>



今回のいけんひろばでいただいた意見は、

- ① 「こどもデータ連携の取組に関する検討会」での活用のほか、
 - ② 「こどもデータ連携ガイドライン」への反映
- に活用いたしました。

①「こどもデータ連携の取組に関する検討会」について

困難な状況にあるこどもは、こども自身が声をあげられなかったり、こどもが自分自身の困難を把握できていなかったりなど、その実態が見えにくく、実際の支援に繋げるまでに様々な課題があります。

そこで「こどもデータ連携」事業では、地方公共団体の様々な部局がもつ、**こどもに関するデータを分野横断で集めて人の目で確認すること**（＝データ連携）、**潜在的に支援が必要なこどもを早期に把握し、プッシュ型・アウトリーチ型支援に繋げる**ための取組を行っております。

このプッシュ型・アウトリーチ型の支援につなげる取組を推進するためのガイドラインを作成するために、「こどもデータ連携の取組に関する検討会」を開催することとしました。

②「こどもデータ連携ガイドライン」について

「こどもデータ連携ガイドライン」は、**地方公共団体（市役所など）の職員がこどもデータ連携の取組を進めるための第一歩として参照するもの**として留意事項（気を付けるべきこと）をまとめたものになります。これまでの実証事業でわかったことや、「こどもデータ連携の取組に関する検討会」で議論したこと、パブリック・コメント（様々な人から意見をもらうこと）でいただいた意見などを反映して作成したものになります。



いけんひろばでいただいた意見は…

「こどもデータ連携ガイドライン」に反映されました。 [こどもデータ連携ガイドライン（成案）](#)

みなさんの意見

1. 「こどもデータ連携」に対する感想

【支援の効果について】

・支援が必要な人でも、自分からはなかなか声をあげられない人、どこに相談していいかわからない人にとっては、支援提供側からアプローチしてくれると支援に繋がりがやすく、気持ち的にも負担にならない。一方、言い方は様々だと思うが、全然知らない人から「あなたには支援が必要です」と言われると嫌に思う人もいるかもしれない。赤の他人からアプローチされると、少し壁を作ってしまう可能性もある。

【データが連携される方法・範囲について】

・行政は縦割りで、制度の狭間にいる人を救えないとよく言われるが、データを活用することでより救うことができるようになる。一方で、自分の知らないところでどのようにデータを使用されているのかは不安である。

いただいた意見の反映

<P.5>

【コラム：こども・若者からのこどもデータ連携に対する意見】

こども家庭庁では、こどもまんなか社会の実現に向けて、こどもの意見を表明する機会を確保し、こどもの意見を尊重するため、こども政策を推進するに当たり、こどもや若者の意見を聴取し施策に反映することとしています。地方公共団体がこどもデータ連携の取組を行う場合にも、各地方公共団体のこども・若者の意見を聴取することが望ましいです。

こどもデータ連携の取組についてもこども・若者から意見を得られましたのでご紹介します。【こども若者★いけんぶらす】¹

○本取組についての意見

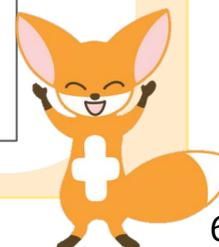
- ・ 支援が必要な人でも、自分からはなかなか声をあげられない人、どこに相談していいかわからない人にとっては、支援提供側からアプローチしてくれると支援につながりやすく、気持ち的にも負担にならない。
- ・ 自分の知らないところでどのようにデータを使用されているのかは不安である。

○支援についての意見

- ・ 話を聞いてくれる人と、実際に支援をしてくれる人は別がよい。例えば、学校の先生の場合は忙しくさせてしまうと気を使ってしまう。
- ・ 嬉しかったのは、相談する時に自分が話せるタイミングになるまで待ってくれること。
- ・ 家がしんどいことを学校の友達が知らないからこそ生きていけるという側面がある。学校での自分を守りたいからあえて伝えていなかった。
- ・ 自分がいじめを経験したときは、学校外の人だったからこそ相談ができた。

<P.4 7>

また、地方公共団体毎の支援体制の中で、誰に、どこまでの情報を共有すべきか、ということについて、支援目的やこども・家庭の状況等を考慮しながら精査することが重要である（後述のコラム欄事例7,8,9）。本取組に対するこども・若者の意見としても、家が困難を抱えていることをあえて声をあげないことで、学校での自分を守りたいという趣旨の意見や、スクールカウンセラーへの相談内容が勝手に担任教員へ伝わっていたことにより不信感を持ったという意見があった。こどもに対する直接的な支援方策の検討を行う場合は、支援方策を検討するに当たって必要な情報や緊急性の高いと判断した情報



いけんひろばでいただいた意見は…

「こどもデータ連携ガイドライン」に反映されました。 [こどもデータ連携ガイドライン（成案）](#)

みなさんの意見

2. 困ったときの相談について

【相談できない相手（場所）】

・話を聞いてくれる人と、実際に支援をしてくれる人は別がよい。例えば、学校の先生の場合は忙しくさせてしまうと気を使ってしまう。

3. 周囲にしてほしい接し方

【受け止める】

・嬉しかったのは、相談する時に自分が話せるタイミングになるまでまってくれること。

いただいた意見の反映

<P.5>

【コラム：こども・若者からのこどもデータ連携に対する意見】

こども家庭庁では、こどもまんなか社会の実現に向けて、こどもの意見を表明する機会を確保し、こどもの意見を尊重するため、こども政策を推進するに当たり、こどもや若者の意見を聴取し施策に反映することとしています。地方公共団体がこどもデータ連携の取組を行う場合にも、各地方公共団体のこども・若者の意見を聴取することが望ましいです。

こどもデータ連携の取組についてもこども・若者から意見を得られましたのでご紹介します。【こども若者★いけんぶらす】¹

○本取組についての意見

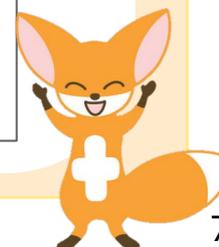
- ・支援が必要な人でも、自分からはなかなか声をあげられない人、どこに相談していいかわからない人にとっては、支援提供側からアプローチしてくれると支援につながりやすく、気持ち的にも負担にならない。
- ・自分の知らないところでどのようにデータを使用されているのかは不安である。

○支援についての意見

- ・話を聞いてくれる人と、実際に支援をしてくれる人は別がよい。例えば、学校の先生の場合は忙しくさせてしまうと気を使ってしまう。
- ・嬉しかったのは、相談する時に自分が話せるタイミングになるまで待つてくれること。
- ・家がしんどいことを学校の友達が知らないからこそ生きていけるという側面がある。学校での自分を守りたいからあえて伝えていなかった。
- ・自分がいじめを経験したときは、学校外の人だったからこそ相談ができた。

<P.4 7>

また、地方公共団体毎の支援体制の中で、誰に、どこまでの情報を共有すべきか、ということについて、支援目的やこども・家庭の状況等を考慮しながら精査することが重要である（後述のコラム欄事例7,8,9）。本取組に対するこども・若者の意見としても、家が困難を抱えていることをあえて声をあげないことで、学校での自分を守りたいという趣旨の意見や、スクールカウンセラーへの相談内容が勝手に担任教員へ伝わっていたことにより不信感を持ったという意見があった。こどもに対する直接的な支援方策の検討を行う場合は、支援方策を検討するに当たって必要な情報や緊急性の高いと判断した情報



1- ②.「こどもデータ連携ガイドライン」への反映について

いけんひろばでいただいた意見は…

「こどもデータ連携ガイドライン」に反映されました。 [こどもデータ連携ガイドライン \(成案\)](#)

みなさんの意見

1. 「こどもデータ連携」に対する感想

【幼少期に声を上げることができたか】

・家がしんどいことを学校の友達が知らないからこそ生きていけるという側面がある。学校での自分を守りたいからあえて伝えていなかった。

【データが連携される方法・範囲について】

・自分がいじめを経験したときは、学校外の人だったからこそ相談ができた。情報を共有する範囲は事前に本人に同意してもらったほうが良いと思う。仮に同意を取らない場合でも、情報を共有する範囲は事前に教えて欲しい。

いただいた意見の反映

<P.5>

【コラム：こども・若者からのこどもデータ連携に対する意見】

こども家庭庁では、こどもまんなか社会の実現に向けて、こどもの意見を表明する機会を確保し、こどもの意見を尊重するため、こども政策を推進するに当たり、こどもや若者の意見を聴取し施策に反映することとしています。地方公共団体がこどもデータ連携の取組を行う場合にも、各地方公共団体のこども・若者の意見を聴取することが望ましいです。

こどもデータ連携の取組についてもこども・若者から意見を得られましたのでご紹介します。【こども若者★いけんひろば】¹

○本取組についての意見

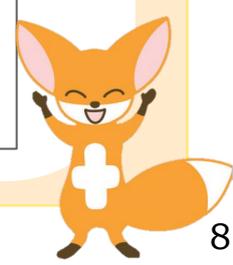
- ・ 支援が必要な人でも、自分からはなかなか声をあげられない人、どこに相談していいかわからない人にとっては、支援提供側からアプローチしてくれると支援につながりやすく、気持ち的にも負担にならない。
- ・ 自分の知らないところでどのようにデータを使用されているのかは不安である。

○支援についての意見

- ・ 話を聞いてくれる人と、実際に支援をしてくれる人は別がよい。例えば、学校の先生の場合は忙しくさせてしまうと気を使ってしまう。
- ・ 嬉しかったのは、相談する時に自分が話せるタイミングになるまで待ってくれること。
- ・ 家がしんどいことを学校の友達が知らないからこそ生きていけるという側面がある。学校での自分を守りたいからあえて伝えていなかった。
- ・ 自分がいじめを経験したときは、学校外の人だったからこそ相談ができた。

<P.4 7>

また、地方公共団体毎の支援体制の中で、誰に、どこまでの情報を共有すべきか、ということについて、支援目的やこども・家庭の状況等を考慮しながら精査することが重要である（後述のコラム欄事例7,8,9）。本取組に対するこども・若者の意見としても、家が困難を抱えていることをあえて声をあげないことで、学校での自分を守りたいという趣旨の意見や、スクールカウンセラーへの相談内容が勝手に担任教員へ伝わっていたことにより不信感を持ったという意見があった。こどもに対する直接的な支援方策の検討を行う場合は、支援方策を検討するに当たって必要な情報や緊急性の高いと判断した情報



いけんひろばでいただいた意見は…

「こどもデータ連携ガイドライン」に反映されました。 [こどもデータ連携ガイドライン \(成案\)](#)

みなさんの意見

1. 「こどもデータ連携」に対する感想

【データが連携される方法・範囲について】

・高校3年生の頃、スクールカウンセラーにスクールソーシャルワーカーの話を聞くために学校の先生につないでもらったが、スクールカウンセラーに行っていることが先生の間で共有されていた。守秘義務が守られていないことに違和感を覚えた。少なくとも、先生同士で共有されていることを相談者自身に知られてはいけないと思う。

・自分がいじめを経験したときは、学校外の人だったからこそ相談ができた。情報を共有する範囲は事前に本人に同意してもらったほうが良いと思う。仮に同意を取らない場合でも、情報を共有する範囲は事前に教えて欲しい。

【幼少期に声を上げることができたか】

・家がしんどいことを学校の友達が知らないからこそ生きていけるという側面がある。学校での自分を守りたいからあえて伝えていなかった。

2. 困ったときの相談について

【相談できる相手 (場所)】

・以前、スクールカウンセラーに相談したとき、自分に確認することなく勝手に担任の先生へ情報共有されたことがあったので、専門職の人に対して苦手意識がある。専門職だったら話せるというよりも、自分が信頼を置ける人であれば話すことができるという感覚。

いただいた意見の反映

<P.5>

【コラム：こども・若者からのこどもデータ連携に対する意見】

こども家庭庁では、こどもまんなか社会の実現に向けて、こどもの意見を表明する機会を確保し、こどもの意見を尊重するため、こども政策を推進するに当たり、こどもや若者の意見を聴取し施策に反映することとしています。地方公共団体がこどもデータ連携の取組を行う場合にも、各地方公共団体のこども・若者の意見を聴取することが望ましいです。

こどもデータ連携の取組についてもこども・若者から意見を得られましたのでご紹介します。【こども若者★いけんぶらす】¹

○本取組についての意見

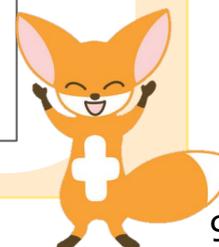
- ・支援が必要な人でも、自分からはなかなか声をあげられない人、どこに相談していいかわからない人にとっては、支援提供側からアプローチしてくれると支援につながりやすく、気持ち的にも負担にならない。
- ・自分の知らないところでどのようにデータを使用されているのかは不安である。

○支援についての意見

- ・話を聞いてくれる人と、実際に支援をしてくれる人は別がよい。例えば、学校の先生の場合は忙しくさせてしまうと気を使ってしまう。
- ・嬉しかったのは、相談する時に自分が話せるタイミングになるまで待ってくれること。
- ・家がしんどいことを学校の友達が知らないからこそ生きていけるという側面がある。学校での自分を守りたいからあえて伝えていなかった。
- ・自分がいじめを経験したときは、学校外の人だったからこそ相談ができた。

<P.4
7>

また、地方公共団体毎の支援体制の中で、誰に、どこまでの情報を共有すべきか、ということについて、支援目的やこども・家庭の状況等を考慮しながら精査することが重要である（後述のコラム欄事例7,8,9）。本取組に対するこども・若者の意見としても、家が困難を抱えていることをあえて声をあげないことで、学校での自分を守りたいという趣旨の意見や、スクールカウンセラーへの相談内容が勝手に担任教員へ伝わっていたことにより不信感を持ったという意見があった。こどもに対する直接的な支援方策の検討を行う場合は、支援方策を検討するに当たって必要な情報や緊急性の高いと判断した情報



こども・若者のみなさんの意見は、
検討会やガイドラインに反映されるなど、
施策の方向性や具体化の議論において活用されました。
多くの意見をいただき、ありがとうございました。

